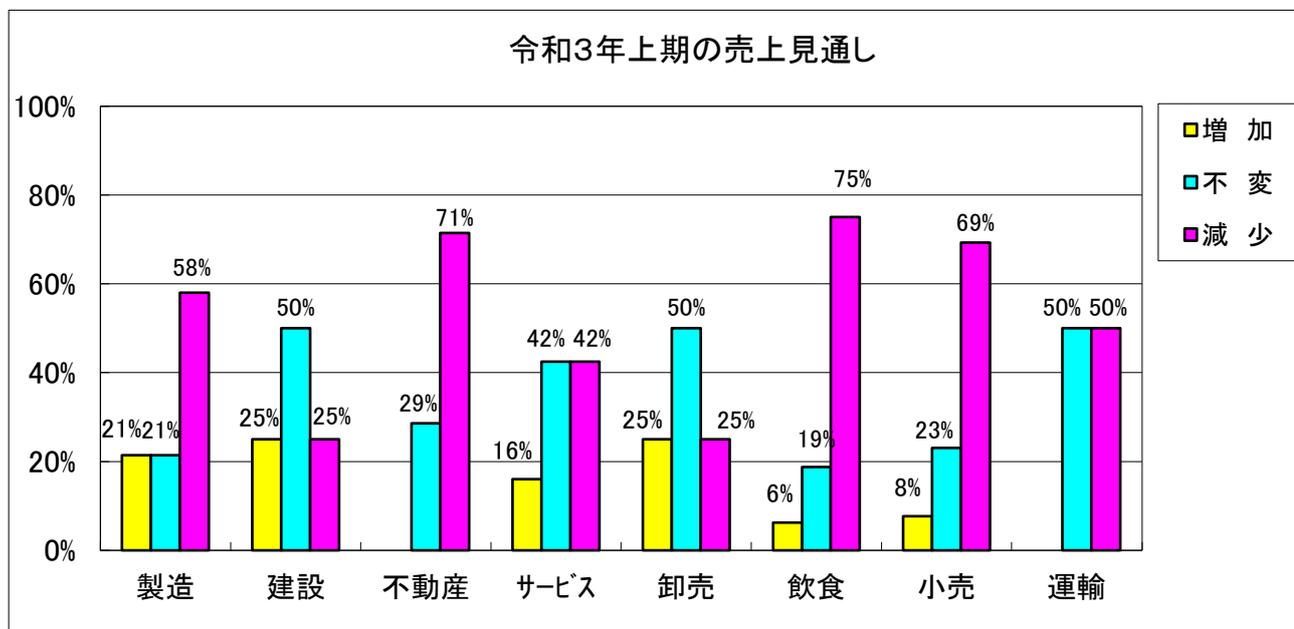


調査2 令和2年7月～12月を基準とした令和3年1月～6月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに5～6ページで表示してあるのでここでは省略する。

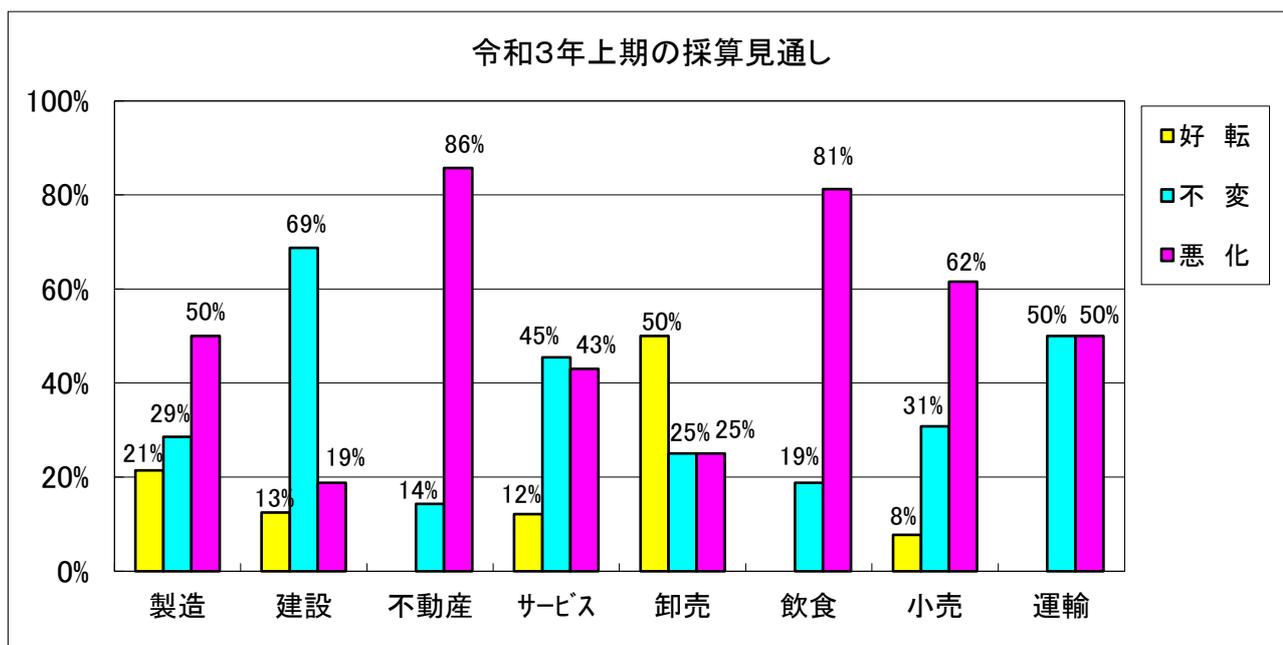
①売上見通し

全体でみると「増加」14%（前回12%）、「減少」51%（前回61%）、「不変」35%（前回27%）となっている。業種別でみると「増加」の見通しがあるのが運輸業（25%）卸売業（25%）、一方、「減少」の見通しが強いのが飲食業（75%）、不動産業（71%）、小売業（69%）であった。



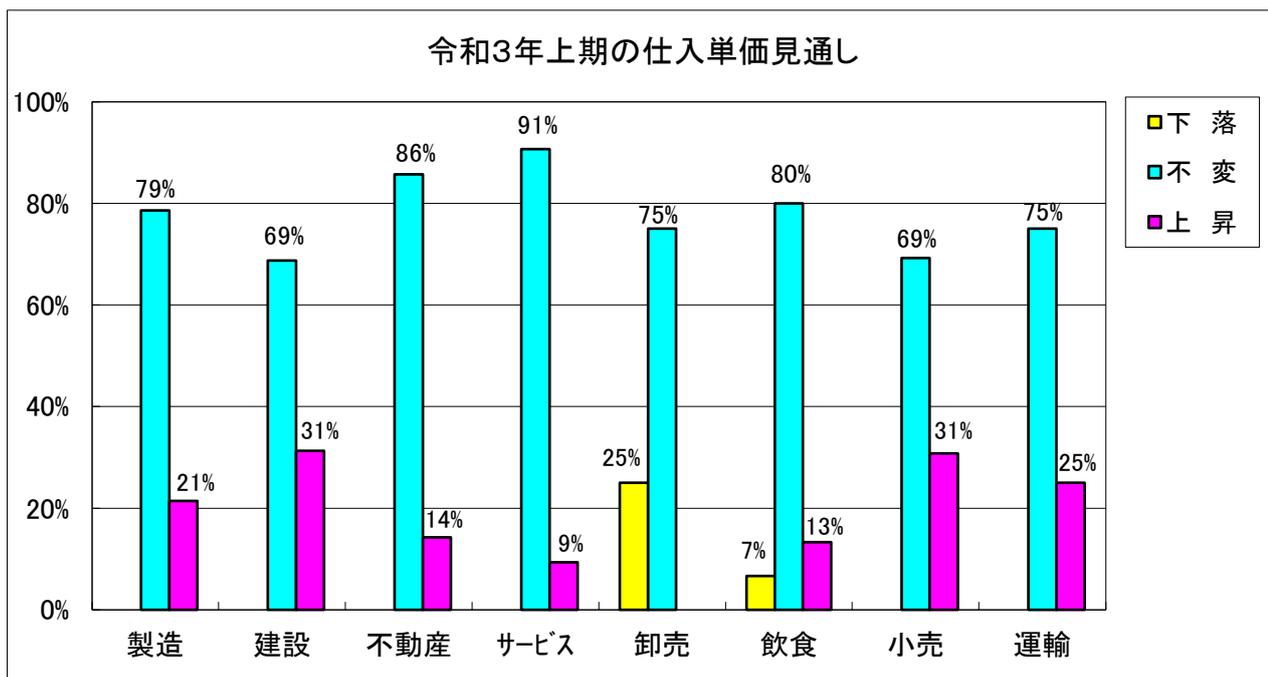
②採算見通し

全体的にみると、「好転」が11%（前回10%）、「不変」が38%（前回37%）、「悪化」が50%（前回53%）となり前回の見通しと変わらず厳しいものとなった。業種でみると、「好転」の見通しが多いのが卸売業（50%）で、「悪化」の見通しが多いのが不動産業（86%）、飲食業（81%）となっている。



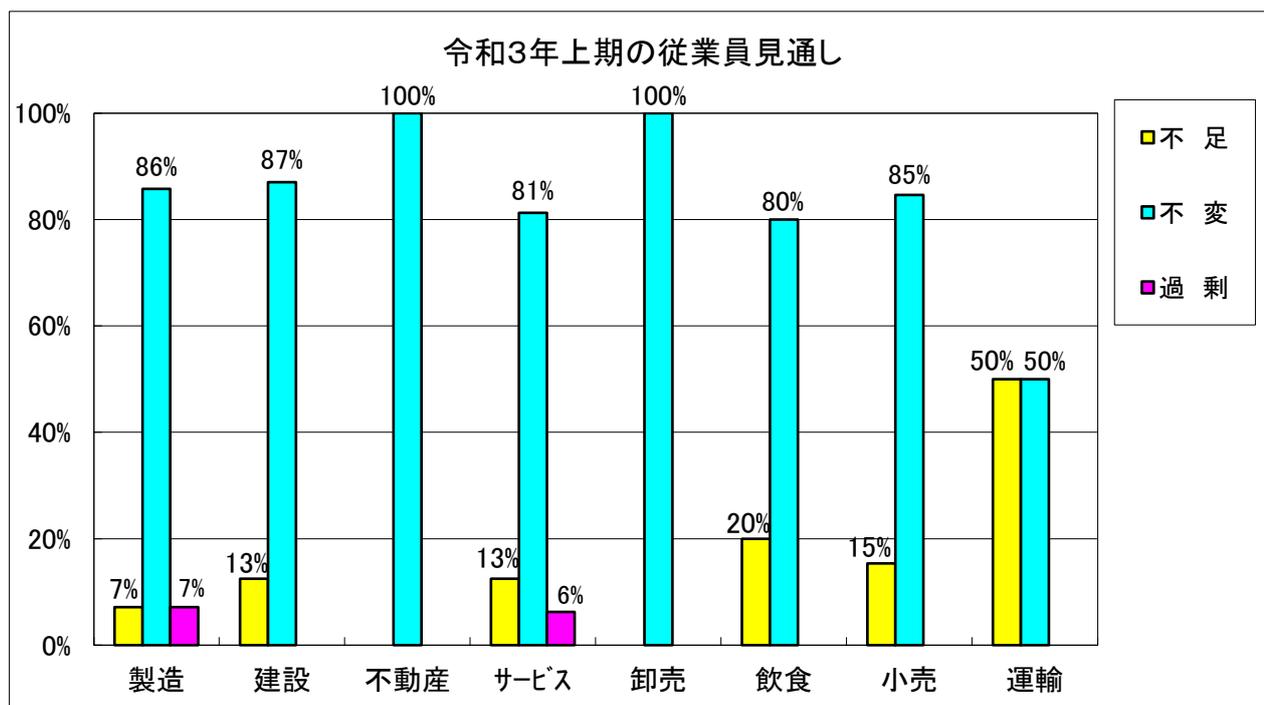
③仕入単価の見通し

全体的には、「不変」が80%（前回73%）、「上昇」が18%（前回24%）の見通し。業種別では「上昇」が高いのは小売業、建設業がともに31%と高くなる見通しとなっている。



④従業員の見通し

全体的には、「不足」が14%（前回10%）、「不変」が84%（前回84%）、「過剰」2%（前回6%）であった。前回調査に比べると従業員の不足の見通しが増加している。業種別でみると「不足」との見通しが高いのが運輸業50%（前回50%）であった。

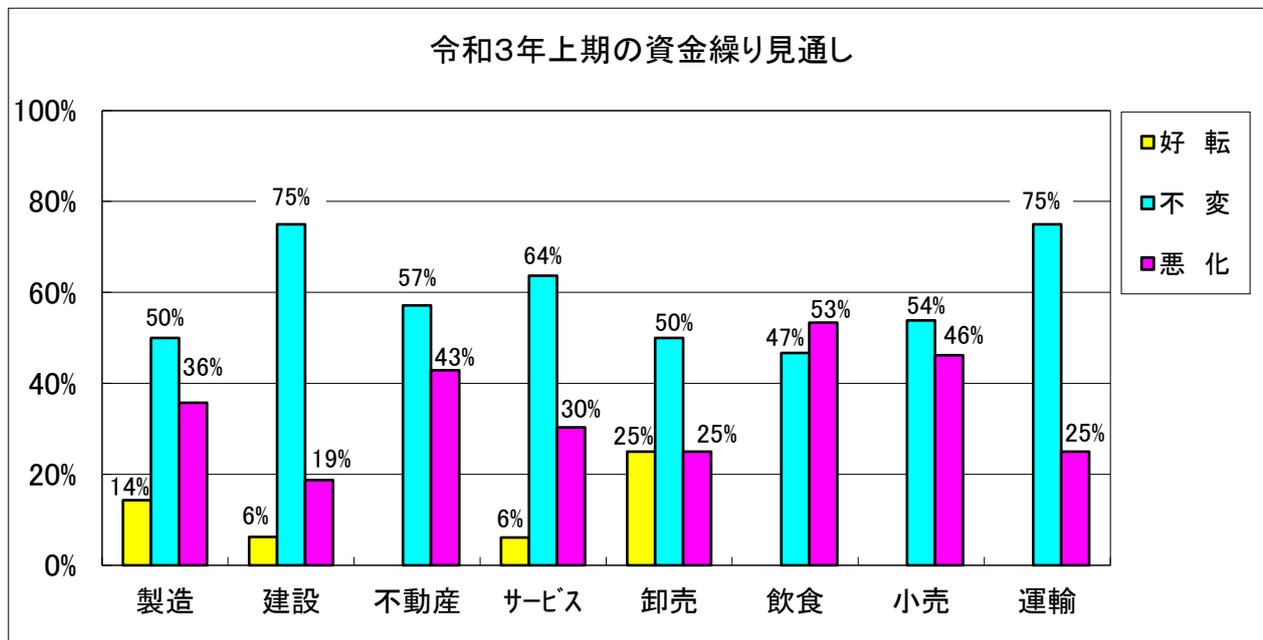


⑤業界の景気動向見通しについて

P5～6を参照。

⑥資金繰りの見通し

全体的に「不変」が59%（前回63%）、「悪化」が35%（前回33%）、「好転」が6%（前回4%）となり、資金繰りの悪化の見通し依然として高い。



⑦金融機関の融資状況見通し

全体的には「不変」(61%)が多く、続いて「融資無し」(20%)、「緩やか」が(6%)「厳しい」(13%)となっている。

